

5/9

装い新たに就職支援

高

年齢者・障害者支援センターに設置していた「フレッシュワーク大村」が西本町バス停そばに移転しました。

「フレッシュワーク大村」は、県が若年者の就職を支援するために設置した施設で、主に就職活動に関する相談（要予約）やセミナーの開催、就職情報の提供などを行なっています。移転に伴い、施設面積も約4倍に拡大し、開館日も週4日に拡大され便利で身近な施設となりました。

開館日は、月・水・金曜日、午前9時30分から午後5時30分までです。（木曜日の午後はセミナー開催）☎8001

「フレッシュワーク大村」移転開所式



5/24

地域農業の活力向上のために

大

村市農業委員会（田添会長）が農林行政に対する建議書を市長へ提出し、その実現を強く要望しました。

今回の建議では、農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加など多くの課題を抱えるなか、本市の農業振興と農業者の所得向上などの実現に向けて、7項目を要望しました。

市長は「担当課とも協議を行い、できる限り要望にお答えしたい。また、戸別所得補償制度についても国や県に対して要望していきたい」と回答しました。

農林行政に対する建議書提出



6/1

梅雨時期を前に警戒区域を視察

雨

季節を迎える時期を前に、市長をはじめ、県央振興局、警察署、消防署、消防団などの関係団体が、市内の土砂災害警戒・特別警戒区域に指定されている場所の状況を視察しました。

今回、鈴田地区の白鳥橋や鈴田小学校裏付近を訪れ、県央振興局からは指定区域の説明を、市の担当者からは災害発生時の避難判断基準などの説明を行いました。

これから梅雨や台風のシーズンを迎えることから、参加した関係機関は、大雨などの災害に備え、相互の連携を強化することを再確認しました。

土砂災害警戒・特別警戒区域状況視察



日本一  
住みたくなるまち



vol.11

4月27日、市制施行70周年記念式典をさくらホールで行いました。県知事をはじめ、姉妹都市である兵庫県伊丹市長、秋田県仙北市長など多数のご来賓、市民の皆さまにご参加いただき、70周年を祝うにふさわしい式典となりました。私は、式辞の中で「日本でもっとも住みたくなるまちを目指します」と宣言しました。

政治家を志して間もない、三十数年前のことでした。「松本さん、あなたの政治家としての目標は何ですか？」

と、熟年の婦人に尋ねられました。「ます大村を、もっと住みよいまちにしたいんです」

私は大きな声で自信をもって答えました。すると、「婦人はゆつくりとした口調で、

「いや松本さん、違いますよ。住みよいまちというよりも、ぜひ住みたくなるまちを目指してください」

それから、その言葉を忘れることなく、ずっと市長として心の奥に生き続けてきました。

数年前のことです。九州市長会の席で、隣県のある市長さんが声をかけてきました。「大村の市長さん、実は私を応援してくれる年齢のご夫婦が、終の棲家はぜひ大村と決めているんですよ、と言われて、私は複雑な気持ちなんですよ」

このとき「子育てするなら大村で」などをスローガンにしていたが、原点に帰って、子どもからお年寄りまで住んでもらえるよう、「日本でもっとも住みたくなるまち」を打ち出すことにしました。

ところで最近、大村は日本のラッシュです。大村城南高校の生徒たちが作ったお米が二年連続日本一、大村工業高校では、バレーボール、ソフトボール、アーチェリー。弓道では森孝子さん、現在は高校生になった中学男子100メートルの永田駿斗くん、同じく中学の女子銃剣道の西村咲弥香さん。書き出せばきりがありません。

「日本一住みたくなるまち大村」も夢ではありません。